

タイトル

ミュシャ展 - 運命のサテール -

鑑賞日時

8月13日

鑑賞施設名

鹿児島市立美術館

アルファンスミュシャ (1860-1939)

19世紀末ヨーロッパで隆盛した芸術運動アール・ヌーヴォーを代表する
 芸術家。現在のチェコ共和国モラヴィアに生まれ、1887
 年パリへ渡る。その才能はパリで花開き、甘美なベル
 ナールを描いたポスターなど、装飾デザインで華やかな活
 躍をとり、時代の寵児となる。花や女性をテーマにした
 流麗な作品は「ミュシャ様式」として人気を博し、現在は
 多くの人が愛する。1910年以降はチェコに
 帰郷、故国への想いに溢れた制作活動を行う。



感想

作品の中で大きなポスターが
 あった。これが実際に展示
 されていたのを想像する
 のがワクワクする。

「アルファンス
 ミュシャ」
 現代に感じる
 感じ?



11月17日という日曜日の
 作品の物語、

この間は横濱の
 作品も多かった。
 油絵、模写、
 水彩画、グラフィック、
 彫刻、など

〈レポートについて〉 夏季休業中に、県内県外を問わず美術館・博物館あるいはそれに類する施設の作品展を鑑賞して、その感想をレポート紙に自由に構成。記入事項は、①展示内容、②展示の感想、③写真資料やスケッチ 等